

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会の IF 記載要領 2013 に準拠して作成

アレルギー性疾患治療剤

日本薬局方 オロパタジン塩酸塩錠
オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「TSU」
オロパタジン塩酸塩錠 5mg「TSU」
Olopatadine Hydrochloride Tablets

剤 形	錠剤(フィルムコーティング錠)
製 剤 の 規 制 区 分	該当しない
規 格 ・ 含 量	錠 2.5mg:1 錠中 オロパタジン塩酸塩 2.5mg 含有 錠 5mg:1 錠中 オロパタジン塩酸塩 5mg 含有
一 般 名	和名:オロパタジン塩酸塩 洋名: Olopatadine Hydrochloride
製 造 販 売 承 認 年 月 日 薬価基準収載・発売年月日	製造販売承認年月日:2012 年 8 月 15 日 薬価基準収載年月日:2017 年 12 月 8 日 発売年月日:2018 年 2 月 5 日
開 発 ・ 製 造 販 売 (輸 入) ・ 提 携 ・ 販 売 会 社 名	製造販売元:鶴原製薬株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問 い 合 わ せ 窓 口	鶴原製薬株式会社 医薬情報部 TEL:072-761-1456(代表) FAX:072-760-5252 医療関係者向けホームページ http://www.tsuruhara-seiyaku.co.jp/member/

本 IF は 2017 年 12 月作成（第 1 版）の添付文書の記載に基づき作成した

最新の添付文書情報は、医薬品医療機器情報提供ホームページ

<http://www.info.pmda.go.jp/> にてご確認ください。

IF 利用の手引きの概要

—日本病院薬剤師会—

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書(以下、添付文書と略す)がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和 63 年に日本病院薬剤師会(以下、日病薬と略す)学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」(以下、IFと略す)の位置付け並びにIF記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成 10 年 9 月に日病薬学術第3小委員会においてIF記載要領の改訂が行われた。

更に 10 年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成 20 年 9 月に日病薬医薬情報委員会においてIF記載要領 2008 が策定された。

IF記載要領 2008 では、IFを紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF等の電磁的データとして提供すること(e-IF)が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版のe-IFが提供されることとなった。

最新版のe-IFは、(独) 医薬品医療機器総合機構の医薬品情報提供ホームページ(<http://www.info.pmda.go.jp/>)から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IFを掲載する医薬品情報提供ホームページが公的サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせてe-IFの情報を検討する組織を設置して、個々のIFが添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008 年より年4回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF 記載要領の一部改訂を行い IF 記載要領 2013 として公表する運びとなった。

2. IFとは

IFは「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等はIFの記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供されたIFは、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[IFの様式]

① 規格はA4版、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体(図表は除く)で記載し、一色刷りとする。

ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。

②IF記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。

③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2 頁にまとめる。

[IFの作成]

①IFは原則として製剤の投与経路別(内用剤、注射剤、外用剤)に作成される。

②IFに記載する項目及び配列は日病薬が策定したIF記載要領に準拠する。

③添付文書の内容を補完するとのIFの主旨に沿って必要な情報が記載される。

④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。

⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領 2013」(以下、「IF記載要領 2013」と略す)により作成されたIFは、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体(PDF)から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

[IFの発行]

①「IF記載要領 2013」は、平成 25 年 10 月以降に承認された新医薬品から適用となる。

②上記以外の医薬品については、「IF記載要領 2013」による作成・提供は強制されるものではない。

③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果(臨床再評価)が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合にはIFが改訂される。

3. IFの利用にあたって

「IF記載要領 2013」においては、PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体のIFについては、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IFの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やIF作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IFの利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IFが改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IFの使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IFを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IFは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IFがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり、インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013 年 4 月改訂)

目 次

I. 概要に関する項目	5	2. 禁忌内容とその理由(原則禁忌を含む)....	17
1. 開発の経緯	5	3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	17
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	5	4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	17
II. 名称に関する項目	6	5. 慎重投与内容とその理由	17
1. 販売名	6	6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	17
2. 一般名	6	7. 相互作用	17
3. 構造式又は示性式	6	8. 副作用	18
4. 分子式及び分子量	6	9. 高齢者への投与	18
5. 化学名(命名法)	6	10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	19
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	6	11. 小児等への投与	19
7. CAS登録番号	7	12. 臨床検査結果に及ぼす影響	19
III. 有効成分に関する項目	7	13. 過量投与	19
1. 物理化学的性質	8	14. 適用上の注意	19
2. 有効成分の各種条件下における安定性	8	15. その他の注意	19
3. 有効成分の確認試験法	8	16. その他	19
4. 有効成分の定量法	8	IX. 非臨床試験に関する項目	20
IV. 製剤に関する項目	9	1. 薬理試験	20
1. 剤形	9	2. 毒性試験	20
2. 製剤の組成	9	X. 管理的事項に関する項目	21
3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	10	1. 規制区分	21
4. 製剤の各種条件下における安定性	10	2. 有効期間又は使用期限	21
5. 調製法及び溶解後の安定性	10	3. 貯法・保存条件	21
6. 他剤との配合変化(物理化学的变化)	10	4. 薬剤取扱い上の注意点	21
7. 溶出性	10	5. 承認条件等	21
8. 生物学的試験法	10	6. 包装	21
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	10	7. 容器の材質	21
10. 製剤中の有効成分の定量法	10	8. 同一成分・同効薬	21
11. 力価	10	9. 国際誕生年月日	21
12. 混入する可能性のある夾雑物	11	10. 製造販売承認年月日及び承認番号	22
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報	11	11. 薬価基準収載年月日	22
14. その他	11	12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	22
V. 治療に関する項目	12	13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	22
1. 効能又は効果	12	14. 再審査期間	22
2. 用法及び用量	12	15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	22
3. 臨床成績	12	16. 各種コード	22
VI. 薬効薬理に関する項目	13	17. 診療報酬上の注意	22
1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群	13	XI. 文献	23
2. 薬理作用	13	1. 引用文献	23
VII. 薬物動態に関する項目	14	2. その他の参考文献	23
1. 血中濃度の推移・測定法	14	XII. 参考資料	23
2. 薬物速度論的パラメータ	15	1. 主な外国での発売状況	23
3. 吸収	15	2. 海外における臨床支援情報	23
4. 分布	15	XIII. 備考	23
5. 代謝	16	その他の関連資料	23
6. 排泄	16		
7. トランスポーターに関する情報	16		
8. 透析等による除去率	16		
VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目	17		
1. 警告内容とその理由	17		

I．概要に関する項目

1. 開発の経緯

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

成人は、アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患に伴う瘙痒(湿疹・皮膚炎、痒疹、皮膚瘙痒症、尋常性乾癬、多形滲出性紅斑)の適応を有する。

小児は、アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患(湿疹・皮膚炎、皮膚瘙痒症)に伴う瘙痒の適応を有する。

重大な副作用として、劇症肝炎、肝機能障害、黄疸があらわれることがある。

Ⅱ．名称に関する項目

1. 販売名

(1)和名：

オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg 「TSU」

オロパタジン塩酸塩錠 5mg 「TSU」

(2)洋名：

Olopatadine Hydrochloride Tablets

(3)名称の由来

一般名＋剤形＋規格(含量)＋「TSU」

〔「医療用後発医薬品の承認申請にあたっての販売名の命名に関する留意事項について」
(平成 17 年 9 月 22 日 薬食審査発第 0922001 号)に基づく〕

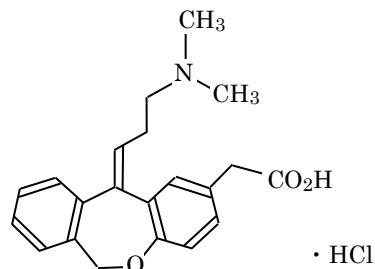
2. 一般名

(1)和名(命名法)：オロパタジン塩酸塩 (JAN)

(2)洋名(命名法)：Olopatadine Hydrochloride (JAN)

(3)ステム：histamine-H1 receptor antagonists, tricyclic compounds (ヒスタミン H1 受容体拮抗剤、三環系化合物)：-tadine

3. 構造式又は示性式



4. 分子式及び分子量

分子式： $C_{21}H_{23}NO_3 \cdot HCl$

分子量：373.87

5. 化学名(命名法)

{11-[(1Z)-3-(Dimethylamino)propylidene]-6,11-dihydrodibenzo[b,e]oxepin-2-yl}acetic acid
Monohydrochloride (IUPAC)

6. 慣用名、別名、略号、記号番号

別名：塩酸オロパタジン

7. CAS登録番号

140462-76-6

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1)外観・性状：白色の結晶又は結晶性の粉末である

(2)溶解性：ギ酸に極めて溶けやすく、水にやや溶けにくく、エタノール(99.5)に極めて溶けにくい。

本品は 0.01 mol/L 塩酸試液に溶ける。

(3)吸湿性：該当資料なし

(4)融点(分解点)、沸点、凝固点：融点：約 250℃（分解）

(5)酸塩基解離定数：該当資料なし

(6)分配係数：該当資料なし

(7)その他の主な示性値：本品 1.0 g を水 100 mL に溶かした液の pH は 2.3～3.3 である。

2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

3. 有効成分の確認試験法

日本薬局方の医薬品各条の「オロパタジン塩酸塩」確認試験法による。

4. 有効成分の定量法

日本薬局方の医薬品各条の「オロパタジン塩酸塩」定量法による。

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1)剤形の区別、外観及び性状：

オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「TSU」は淡黄赤色のフィルムコーティング錠で、識別記号は表面 O26、裏面 2.5 である。

オロパタジン塩酸塩錠 5mg「TSU」は片面割線入りの淡黄赤色のフィルムコーティング錠で、識別記号は表面 O27、裏面 5 である。

2.5mg 錠				直径：約 6.1mm 厚さ：約 2.7mm 重量：約 83mg
5mg 錠				直径：約 6.6mm 厚さ：約 3.0mm 重量：約 104mg

(2)製剤の物性：該当資料なし

(3)識別コード：

オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「TSU」：表面 O26、裏面 2.5

オロパタジン塩酸塩錠 5mg「TSU」：表面 O27、裏面 5

(4)pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定な pH 域等：該当資料なし

2. 製剤の組成

(1)有効成分(活性成分)の含量：

オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「TSU」：1錠中オロパタジン塩酸塩 2.5mg

オロパタジン塩酸塩錠 5mg「TSU」：1錠中オロパタジン塩酸塩 5mg

(2)添加物：

オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「TSU」：乳糖水和物、結晶セルロース、ポリビニルアルコール(部分けん化物)、クロスカルメロースナトリウム、ステアリン酸マグネシウム、ヒプロメロース、マクロゴール 6000、酸化チタン、タルク、三二酸化鉄、黄色三二酸化鉄、カルナウバロウ

オロパタジン塩酸塩錠 5mg「TSU」：乳糖水和物、結晶セルロース、ポリビニルアルコール(部分けん化物)、クロスカルメロースナトリウム、ステアリン酸マグネシウム、ヒプロメロース、マクロゴール 6000、酸化チタン、タルク、三二酸化鉄、黄色三二酸化鉄、カルナウバロウ

(3)その他：該当資料なし

3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当資料なし

4. 製剤の各種条件下における安定性

最終包装製品を用いた加速試験（40℃、相対湿度 75%、6 ヶ月）の結果、オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg 「TSU」、オロパタジン塩酸塩錠 5mg 「TSU」は通常の市場流通下において 3 年間安定であることが推測された。

5. 調製法及び溶解後の安定性

該当資料なし

6. 他剤との配合変化(物理化学的变化)

該当資料なし

7. 溶出性

オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg 「TSU」、オロパタジン塩酸塩錠 5mg 「TSU」は日本薬局方医薬品各条に定められたオロパタジン塩酸塩錠の溶出規格に適合していることが確認されている。

方法：日局溶出試験法

回転数：50rpm

試験液：水（900mL）

結果：

オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg 「TSU」 15 分間の溶出率 85%以上

オロパタジン塩酸塩錠 5mg 「TSU」 15 分間の溶出率 85%以上

8. 生物学的試験法

該当資料なし

9. 製剤中の有効成分の確認試験法

日本薬局方の医薬品各条の「オロパタジン塩酸塩」確認試験法による。

10. 製剤中の有効成分の定量法

日本薬局方の医薬品各条の「オロパタジン塩酸塩」定量法による。

11. 力価

該当しない

12. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報

該当資料なし

14. その他

該当しない

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

成人：アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患に伴う瘙痒(湿疹・皮膚炎、痒疹、皮膚掻痒症、尋常性乾癬、多形滲出性紅斑)

小児：アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患(湿疹・皮膚炎、皮膚掻痒症)に伴う瘙痒

2. 用法及び用量

成人：通常、成人には1回オロパタジン塩酸塩として5mgを朝及び就寝前の1日2回経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

小児：通常、7歳以上の小児には1回オロパタジン塩酸塩として5mgを朝及び就寝前の1日2回経口投与する。

3. 臨床成績

(1)臨床データパッケージ

該当資料なし

(2)臨床効果

該当資料なし

(3)臨床薬理試験

該当資料なし

(4)探索的試験

該当資料なし

(5)検証的試験

1)無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

2)比較試験

該当資料なし

3)安全性試験

該当資料なし

4)患者・病態別試験

該当資料なし

(6)治療的使用

1)使用成績調査・特定使用成績調査(特別調査)・製造販売後臨床試験(市販後臨床試験)

該当資料なし

2)承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群

2. 薬理作用

(1)作用部位・作用機序

オロパタジン塩酸塩は抗アレルギー薬で、ヒスタミン H1 受容体拮抗作用を主体とし、ケミカルメディエーター（ロイコトリエン、トロンボキサン、PAF 等）の産生・遊離抑制作用を現す。更に、神経伝達物質タキキニン遊離抑制作用も有する。

(2)薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

(3)作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

(1)治療上有効な血中濃度

該当資料なし

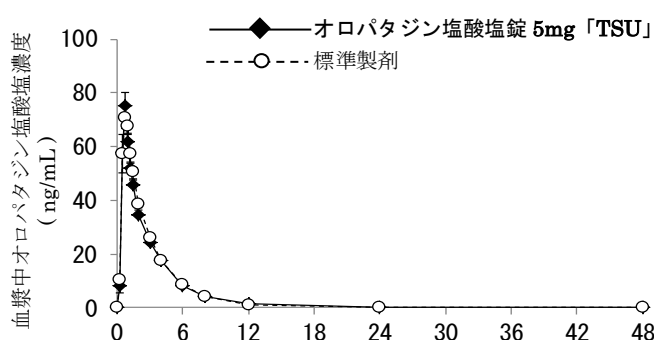
(2)最高血中濃度到達時間

(「臨床試験で確認された血中濃度」の項参照)

(3)臨床試験で確認された血中濃度

オロパタジン塩酸塩錠 5mg 「TSU」と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ1錠（オロパタジン塩酸塩として 5mg）を健康成人男子に絶食時単回経口投与して血漿中未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC、C_{max}）について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.8) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。

また、オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg 「TSU」は、「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン（平成24年2月29日 薬食審査発 0229 第10号）」に基づき、オロパタジン塩酸塩錠 5mg 「TSU」を標準製剤としたとき、溶出挙動が等しく、生物学的に同等とみなされた。



	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC ₀₋₄₈ (ng・hr/mL)	C _{max} (ng/mL)	T _{max} (hr)	t _{1/2} (hr)
オロパタジン塩酸塩錠 5mg 「TSU」	202.7±8.1	82.0±5.1	0.8±0.1	3.7±0.4
標準製剤（錠剤、5mg）	211.2±6.1	80.9±3.8	0.8±0.1	3.1±0.2

(4)中毒域

該当資料なし

(5)食事・併用薬の影響

(「Ⅷ. 安全性 (使用上の注意等) に関する項目 7.相互作用」の項を参照のこと)

(6)母集団(ポピュレーション)解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

(1)解析方法

該当資料なし

(2)吸収速度定数

該当資料なし

(3)バイオアベイラビリティ

該当資料なし

(4)消失速度定数

該当資料なし

(5)クリアランス

該当資料なし

(6)分布容積

該当資料なし

(7)血漿蛋白結合率

該当資料なし

3. 吸収

該当資料なし

4. 分布

(1)血液－脳関門通過性

該当資料なし

(2)血液－胎盤関門通過性

該当資料なし

(3)乳汁への移行性

該当資料なし

(4)髄液への移行性

該当資料なし

(5)その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代謝

(1)代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

(2)代謝に関与する酵素(CYP450 等)の分子種

該当資料なし

(3)初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4)代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

(5)活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排泄

(1)排泄部位及び経路

該当資料なし

(2)排泄率

該当資料なし

(3)排泄速度

該当資料なし

7. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

8. 透析等による除去率

該当資料なし

VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当しない

2. 禁忌内容とその理由(原則禁忌を含む)

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

5. 慎重投与内容とその理由

- 1) 腎機能低下患者〔高い血中濃度が持続するおそれがある。〕
- 2) 高齢者〔「高齢者への投与」の項参照〕
- 3) 肝機能障害のある患者〔肝機能障害が悪化するおそれがある。〕

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

- 1) 眠気を催すことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作には従事させないよう十分注意すること。
- 2) 長期ステロイド療法を受けている患者で、本剤投与によりステロイド減量を図る場合には十分な管理下で徐々に行うこと。
- 3) 本剤を季節性の患者に投与する場合は、好発季節を考えて、その直前から投与を開始し、好発季節終了時まで続けることが望ましい。
- 4) 本剤の使用により効果が認められない場合には、漫然と長期にわたり投与しないように注意すること。

7. 相互作用

(1)併用禁忌とその理由

該当しない

(2)併用注意とその理由

該当しない

8. 副作用

(1)副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(2)重大な副作用と初期症状

重大な副作用（頻度不明）

劇症肝炎、肝機能障害、黄疸：劇症肝炎、AST(GOT)、ALT(GPT)、 γ -GTP、LDH、Al-Pの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(3)その他の副作用

	頻 度 不 明
過敏症 ^{注)}	紅斑等の発疹、浮腫（顔面・四肢等）、痒痒、呼吸困難
精神神経系	眠気、倦怠感、口渇、頭痛・頭重感、めまい、集中力低下、しびれ感、不随意運動（顔面、四肢等）
消化器	腹部不快感、腹痛、下痢、嘔気、便秘、口内炎・口角炎・舌痛、胸やけ、食欲亢進、嘔吐
肝臓	肝機能異常〔ALT(GPT)、AST(GOT)、LDH、 γ -GTP、Al-P、総ビリルビン上昇〕、
血液	白血球増多、好酸球増多、リンパ球減少、白血球減少、血小板減少
腎臓・泌尿器	尿潜血、BUN上昇、尿蛋白陽性、血中クレアチニン上昇、頻尿、排尿困難
循環器	動悸、血圧上昇
その他	血清コレステロール上昇、尿糖陽性、胸部不快感、味覚異常、体重増加、ほてり、月経異常、筋肉痛、関節痛

注) このような症状があらわれた場合には、投与を中止すること。

(4)項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5)基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6)薬物アレルギーに対する注意及び試験法

該当資料なし

9. 高齢者への投与

高齢者では生理機能が低下していることが多く、副作用が発現しやすいので、低用量から投与を開始するなど患者の状態を観察しながら慎重に投与すること

10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- 1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。〕
- 2) 授乳中の婦人に投与することを避け、やむを得ず投与する場合には授乳を中止させること。〔動物実験（ラット）で乳汁中への移行及び出生児の体重増加抑制が報告されている。〕

11. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児に対する安全性は確立していない。〔使用経験が少ない。〕

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

本剤の投与は、アレルゲン皮内反応を抑制し、アレルゲンの確認に支障を来すので、アレルゲン皮内反応検査を実施する前は本剤を投与しないこと。

13. 過量投与

該当資料なし

14. 適用上の注意

- 1) 薬剤交付時:PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。
〔PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。〕
- 2) 薬剤分割時：分割したときは遮光下に保存すること。

15. その他の注意

因果関係は明らかではないが、本剤投与中に心筋梗塞の発症がみられた症例が報告されている。

16. その他

該当資料なし

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

(1)薬効薬理試験(「VI.薬効薬理に関する項目」参照)

該当資料なし

(2)副次的薬理試験

該当資料なし

(3)安全性薬理試験

該当資料なし

(4)その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

(1)単回投与毒性試験

該当資料なし

(2)反復投与毒性試験

該当資料なし

(3)生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4)その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製剤：該当しない

有効成分：該当しない

2. 有効期間又は使用期限

使用期限：3 年（安定性試験に基づく）

3. 貯法・保存条件

室温保存

4. 薬剤取扱い上の注意点

(1)薬局での取り扱い上の留意点について

（「規制区分」及び「貯法・保存条件」の項を参照のこと）

(2)薬剤交付時の取扱いについて(患者等に留意すべき必須事項等)

（「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目 14.適用上の注意」の項を参照のこと）

(3)調剤時の留意点について

5. 承認条件等

なし

6. 包装

錠 2.5mg（PTP）100 錠

錠 5mg （PTP）100 錠

7. 容器の材質

P T P：ポリ塩化ビニル アルミ箔

8. 同一成分・同効薬

同一成分薬：アレロック錠 2.5、アレロック錠 5

9. 国際誕生年月日

不明

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

製品名	製造販売承認年月日	承認番号
オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg 「TSU」	2012 年 8 月 15 日	22400AMX01363000
オロパタジン塩酸塩錠 5mg 「TSU」	2012 年 8 月 15 日	22400AMX01364000

11. 薬価基準収載年月日

製品名	薬価基準収載年月日
オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg 「TSU」	2017 年 12 月 8 日
オロパタジン塩酸塩錠 5mg 「TSU」	2017 年 12 月 8 日

12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

2017 年 10 月 11 日：

【効能・効果】小児：アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患(湿疹・皮膚炎、皮膚掻痒症)に伴う掻痒

【用法・用量】小児：通常、7 歳以上の小児には 1 回オロパタジン塩酸塩として 5mg を朝及び就寝前の 1 日 2 回経口投与する。

13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

14. 再審査期間

該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報

本剤は、投与期間に関する制限は定められていない。

16. 各種コード

製品名	HOT（9 桁） 番号	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	レセプト電算 コード
オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg 「TSU」	125974201	4490025F1015	622597401
オロパタジン塩酸塩錠 5mg 「TSU」	125975901	4490025F2011	622597501

17. 診療報酬上の注意

本剤は保険診療上の後発医薬品である。

X I. 文献

1. 引用文献

2. その他の参考文献

第 18 改正 日本薬局方

X II. 参考資料

1. 主な外国での発売状況

該当しない

2. 海外における臨床支援情報

該当しない

X III. 備考

その他の関連資料

なし



製造販売元

鶴原製薬株式会社

大阪府池田市豊島北1丁目16番1号

文献請求先：鶴原製薬（株）医薬情報部